

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	わらべうた練馬高野台保育園
施設所在地	東京都練馬区富士見台3-59-14
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

植物/自然の探求

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

1人の男の子が紫陽花が大好きで、紫陽花の話や自宅で様々な花を育てていることをクラスで話したことで、3歳児クラスの終わりの頃からクラスの子どもたちも植物への興味関心が広がった。その後、散歩先や園庭で出会った植物を調べたりするようになったことから始まり、4歳児クラスになりクラス全体で植物探求をするようになった。植物の探求を通して、植物を知り、更に子ども同士での話し合いや意見交換の場を設けるのに良い題材であると判断した。

2. 活動スケジュール

【植物への興味が芽生える】
5月：植物が好きな子どもがきっかけで、クラス全体に植物への興味が広がる。散歩先で植物を観察し、花や植物を見る。植物への興味を探る。

【散歩での植物探求と研究】
5月27日(水)：川沿いを散歩し、キノコや紫陽花、テントウムシを見つける。見つけた植物や虫は写真に取り、園にかえってパソコンで調べてみる。また、拾ってきたつじの花で色水作りを行う。
6月2日(月)：登園時にチョウチョを見た児が園にあった昆虫図鑑でチョウチョの種類を調べる。また、園庭でテントウムシを発見、図鑑を見て必要な餌を知り、砂糖水やバナナを与えて飼育を始める。

【野菜の栽培を始める】
6月：昨年度きゅうりとナスを育てた経験から、また栽培に興味を持つ。図鑑を見たり、栄養士と育て方を確認した上で、かぼちゃに決定。昨年度の土を日干しして、土を作る。種を植えて、毎日順番に子どもが水やりを行う。保育士も栄養士に相談しながら、肥料の撒き方等育ち方を学ぶ。
7月29日(火)：かぼちゃに花が咲き、受粉方法を子どもたちとパソコンで調べる。その際、枯れた葉っぱに線があることを伝え、興味を持ち虫眼鏡で観察を始める。
9月2日(火)：雌花と雄花の咲くタイミングが合わず、かぼちゃが枯れてしまう。何故枯れてしまったのか話し合う。また、絵本を見ているとき様々な種類のかぼちゃがあることを知る。地図や産地への興味を把握。

【虫眼鏡で詳しく観察を始める】
11月：春とは植物の様子が変わっていた為、植物観察を提案。虫眼鏡で観察したいという意見が出たため、園庭に虫眼鏡を持っていき枯れたアジサイや砂を観察。その際、スポンの素材や門扉にも興味を持つ。
11月：子どもたちが自分たちで見つけた物や小さな見え方への興味があると考察。さらに子どもたちが植物を調べられるよう、顕微鏡とカメラ購入。
12月1日(月)：虫眼鏡と探検図鑑を持って散歩へ行く。虫や植物を調べながら観察する。
12月：購入したカメラ、顕微鏡、図鑑、地球儀を使い、植物の観察を行う。使用方法については子どもたちと話し合いを実施。

【観察が身の回りのものに広がる】
1月：顕微鏡使用の際、植物だけではなく身の回りの様々なものへ興味が広がり、玩具や紙、絵の具などを観察。

【活動のまとめ】
2月：活動のまとめ
→植物を主にしながらも、色々なところに興味が広がる。戸外活動でも花や草に興味を持って観察している。
2月、3月の予定
一人でもグループでも、各自好きな植物についてのドキュメンテーションを作り、クラスで発表を行なう。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・園にあった子ども用の探検図鑑を散歩に持っていき、植物や生き物がいつでも調べられるようにした
- ・植物に関する図鑑を購入し、散歩先で見つけた植物を調べたり、図鑑を見て様々な植物・生き物へ興味が湧くよう促す
- ・顕微鏡を購入し、見つけた植物を細部まで調べられるようにした
- ・地球儀を購入し、育てていたかぼちゃがどこで育ったか、その他の植物や野菜がどこで育ったのか調べられるようにした
- ・カメラを購入し、気になった植物を自分で撮影、調べられるようにした

購入品

- ・図鑑7冊(小学館の図鑑NEO花、小学館の図鑑NEOきのこ、小学館の図鑑NEO地球、学研の図鑑LIVEなぜ? どうして? はじめてのこども図鑑くさばな、くらべてわかる木の葉っぱ、くらべてわかるきのこ、じぶんでよめるしよくぶつずかん)
- ・地球儀
- ・顕微鏡5台
- ・カメラ5台

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 【植物への興味の広がり】
一人の子どもの植物への興味が、周りの友達に広がっていく
- 【散歩での植物探索と研究】
戸外で植物を見つけ、興味を持つ。
散歩の活動が見つける活動に広がっていく。
見つけたものを中心に図鑑で調べるといった姿が見られるようになる。
- 【野菜の栽培を始める】
自分たちも1から育てたい、という思いが芽生える。野菜の栽培(かぼちゃ)を始めると、生き物にも興味を示し、カブトムシ、テントウムシの飼育にも意欲が湧く
- 【虫眼鏡で詳しく観察を始める】
小さな世界への興味が芽生える。観察するうちに、より細部まで詳細に観察することへの興味を持つ。
植物観察の環境作りを行なう
カメラ、図鑑、顕微鏡、地球儀を用意し、自分で見つけて調べる、という経験をする
その際、カメラの使い方について話し合いを行い、子どもたちで意見を出し合う
- 【観察が身の回りのものに広がる】
今まで植物を中心に観察していたが、興味が身の回りものに広がる
- 【活動のまとめ】
植物観察のプロセス、自然との関わりの意味を振り返り、発信する(ドキュメンテーション、保護者会など)
子ども自身で好きな植物やおすすめの植物をまとめ、クラスで発表を行なう予定

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

初めは一名の児が興味を持って植物に関わる姿が見られ、それを見ていた他の児も一緒に探したり、保育士が「このお花何だろう」など声を掛けて興味を促した。観察をしているうちに、「持って帰りたい」「この花で色水作ったことある。作りたい」という声が見られて植物の探求を始めた。

次第に興味は植物だけでなく、葉っぱや花にいた虫へと広がっていく。テントウムシを見つけて「育てたい!」ということで、テントウムシの飼育を開始する。同時期、昨年度卵から育てていたカブトムシも成虫になり、飼育を開始。毎日餌やり、霧吹きを忘れず行なう。「なんか元気ないね」「もう餌食べてる!可愛いね」等生き物への愛情が芽生える。

かぼちゃ栽培では、中々芽が出ず栽培に苦戦するが、どうしたら育つか子どもたち自身で図鑑や絵本を使って調べる姿が見られるようになる。また、クラスで話し合いを行い、意見を出し合う。

11月頃から、季節の変化により春とは異なる植物の状態を発見。保育士の「葉っぱをよく見ると線がいっぱいあるね」の声をきっかけに、細部まで興味を持つ。虫眼鏡を渡すと、観察を開始する。「よく見える!」と興味を持って観察に取り組む。

植物や生き物への興味関心により、図鑑や顕微鏡、カメラを購入すると、まずは使い方についての話し合いを重ね、クラスで共通ルールを作る。その後、カメラで気になった植物や生き物の撮影、図鑑で調べもの、顕微鏡での観察を行う。カメラでは、「木に蜜がある!虫が食べるんだよね!」「赤い実だ!」と次々に不思議を見つけ撮影。また、葉っぱの図鑑を持って公園に行くと、葉っぱの形や色、大きさを観察しながら何という種類の植物か考察。

クラス全体で植物、生き物への興味が広がっていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

初めは一人の興味であり、他児はあまり関心がないように見られたが、児の熱量の高さや保育士の声掛けにより、植物、生物に関する活動が展開していった。

普段公園では走り回ることが中心であったが、植物探しという別の楽しみを持って散歩に行くことが出来るようになった。また、生き物の飼育、野菜の栽培を通して、育てることの難しさを学ぶことができた。図鑑やカメラでは、気になったものを自ら調べるという習慣がついた。顕微鏡では、小さな世界への興味が高まり、様々なものへの関心に広がった。

これまでは気になる植物があったら抜く、分からないことがあったら大人に聞く、という姿であったが、植物の探究を通して、植物を大切にしたい気持ちや自分で調べようとする意欲が見られるようになった。

季節ごとに見られる植物は異なる為、今後も引き続き植物探しを行ったり、植物が育つ環境にも目を向けられるように促していきたい。また、顕微鏡で小さな世界に興味が出て、それが植物だけでなく玩具などにも派生したことから、素材や作り方の違いなどにも興味をつなげていきたい。また、活動をドキュメンテーションにしたり、グループでまとめたり、クラスで発表してみる機会を設け、子ども自身で振り返りをする時間を設けていきたい。